

## ボツワナ共和国月報(2023年6月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- マシシ大統領の母親が逝去
- ボツワナが女性のエンパワメントに関し平和賞を受賞
- ボツワナ政府人事(司法長官、大統領府顧問)

#### 【外政】

- マシシ大統領、モザンビークにてモザンビーク民族抵抗運動関連の式典に出席
- マシシ大統領、ナミビアを訪問

#### 【SADC関連】

- SADC国際協力パートナー会合の開催

#### 【経済】

- 政府2023/24年借入戦略
- 第3回ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利は2.65%を維持-
- ボツワナ銀行「金融安定レポート」-銀行セクターは概ね安定的-
- 銅鉱脈の探鉱-カラハリ銅ベルト地帯で3社が探鉱中-
- 世銀による融資承認
- ノルウェー企業が太陽光発電建設に向け4,600万米ドルを調達
- 5月インフレ率-前月比で2.2%の下落-
- 燃料小売価格の値下げ改定
- 4月国際商品貿易統計-1.4億プラの黒字-
- 2023年第1四半期GDP
- 2023年第1四半期電力統計
- 2023年第1四半期鉱業統計

#### 【当館関連イベント】

- 世界知的所有権機関(WIPO)ジャパン・ファンド事業「INTELLECTUAL PROPERTY WEEK」

#### 【内政】

- マシシ大統領の母親が逝去

2日、マシシ大統領の母親であるマセホ・マシシ(通称:マ・ツェラン)が、ハポローネ市内にて95歳で亡くなった。10日、マシシ大統領の地元であるモシュパにて告別式が執り行われ、モハエ元大統領や現職大臣を始め、南アフリカの議員等が参列した。

- ボツワナが女性のエンパワメントに関し平和賞を受賞

7日、ベルギーに本部を置くWomen Political Leaders(WPL)は、ボツワナに対し、管理職ポストに女性を任命することにより女性のエンパワメントに尽力してきたことを称え、

平和賞(a peace award)を贈った。同賞は、マシーレ・ムワンバ駐ベルギー大使によって受領され、21日、マシシ大統領の元に届けられた。大統領は、国家が民主主義の原則を向上させ国民に寄与してきたことの証左として、受賞に謝意を述べた。なお、本賞はボツワナの他、アイスランド、アイルランド、カナダ及び日本に対しても贈られた。

#### ○ボツワナ政府人事(司法長官、大統領府顧問)

政府は、前司法長官のアブラハム・キートシャベ氏の退任に伴い、新たにマコ・シンシア・エイブラム氏を司法長官に任命した。また、ジェーコブ・ンカテ前駐日大使を大統領府顧問(内務担当)に任命した。

#### 【外政】

#### ○マシシ大統領、モザンビークにてモザンビーク民族抵抗運動関連の式典に出席

23日、マシシ大統領はモザンビークのマプトで行われたモザンビーク民族抵抗運動(RENAMO)の元戦闘員の武装解除・動員解除・社会復帰プロセスに関する式典に出席した。RENAMOは政党且つ過激派組織として冷戦時代からモザンビークで活動していたが、2019年に敵対行為の停止を宣言した。本訪問にはクワペ外務大臣とムシ国防・安全保障大臣が同行した。

#### ○マシシ大統領、ナミビアを訪問

26日、マシシ大統領はナミビアを訪問し、ナミビアのガインゴブ大統領と二国間協力及び地域の平和と安全保障について協議した。本訪問にはクワペ外務大臣が同行した。

#### 【SADC関連】

#### ○SADC国際協力パートナー会合の開催

16日、ハボローネ市にてSADC国際協力パートナー(ICP)会合が開催され、本年4月にSADC理事会により承認された、2020年～2030年地域指針戦略開発(RISDP2020-2030)の優先プロジェクトがICPに提示された。エリアス・マホシSADC事務局長及び、ICP議長のペトラ・ペレイラEU大使が共同議長を務め、ICPs、SADC補助機関、SADC事務局の代表が参加した。

#### 【経済】

#### ○政府2023/24年借入戦略

13日、ボツワナ銀行は、ボツワナ政府の2023/24年借入戦略及び債券(国債及び財務省証券)オークション・カレンダーを発表した。同年度の国内総資金需要は75億9,000万プラと予測され、50億プラの国債及び8億7,900万プラを財務省証券の発行で、残りを対外借入で調達する(図)。

種類	金額
短期国債（2-5年）	8億7,900万プラ
インフレ連動長期国債（6-25年）	20億プラ
財務省証券	30億プラ

○ 第3回ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利は2.65%を維持-

14日及び15日、ボツワナ銀行は、本年3回目の金融政策会合を開催し、前回に引き続き、政策金利(MoPR)を2.65%の現状維持とした。本年5月時点でのインフレ率(年間ベース)が5.7%と、同行の中長期インフレ目標の3から6%のレンジに収まり(後述)、今後そのレンジ内で推移すると予測される。他方、今後、予想を上回る国際商品価格や行政価格(管理価格)の上昇の可能性も指摘されている。このような状況を踏まえ、政策金利は現状維持となった。

○ ボツワナ銀行「金融安定レポート」-銀行セクターは概ね安定的-

国内銀行セクターは、本年3月の米国シリコンバレー銀行破綻等の一連の世界的な金融不安を抱えるものの、信用(与信)、流動性、資金調達や金利リスク等に対して引き続き弾力的である。但し、地政学的緊張(ウクライナ情勢等)、先進国の景気後退リスク(主に利上げによる)、サイバーセキュリティや気候関連の金融リスクによる脆弱性の悪化がリスク要因となる。

○ 銅鉱脈の探鉱-カラハリ銅ベルト地帯で3社が探鉱中-

ボツワナ鉱業会議所によれば、銅の世界市場が回復を続ける中、現在少なくとも3社がカラハリ銅鉱脈を探鉱中で、操業開始を視野に入れている。シカワ同会議所会頭によれば、銅を必要とする再生可能エネルギーの利用が拡大していることから、国際的な投資家がこの鉱山に関心を寄せている。

○ 世銀による融資承認

世銀は、ボツワナに対し、地域経済の包摂的で強靱な低炭素成長を促進するための新たな融資150百万米ドルを承認した。この融資は、2021年の経済回復力・グリーン復興開発政策借款(Botswana Programmatic Economic Resilience and Green Recovery Development Policy Loan)250百万米ドルの第2トランシェである。

○ ノルウェー企業が太陽光発電建設に向け4,600万米ドルを調達

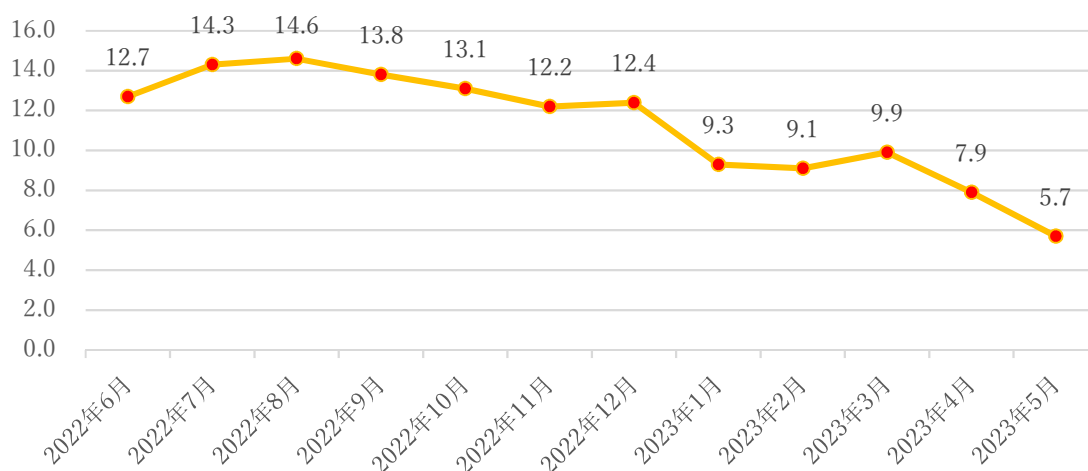
ノルウェー企業SCATEC ASA社は、国際金融公社(IFC)から、セレビ・ピクウェで予定されている太陽光発電所建設費用として4,600万米ドルを調達した。同社は、2021年8月に実施された同発電所入札により本建設事業を受注した。同発電所は、規模50メガワット、IPP方式で実施され、同社が発電所の建設と運営を行い、ボツワナ電力公社(BPC)へ25年間売電する契約となっている。ボツワナの電力需要は600メガワットであるが、

2012年に日本政府の拠出(無償資金協力)によって試行的に建設された1.3メガワットの太陽光発電所を除き、化石燃料によって賄われている。

○5月インフレ率-前月比で2.2%の下落-

5月の年間インフレ率は5.7%で、前月の7.9%から2.2%下落した。分野別寄与度は、食品・非アルコール飲料(1.9%)、運輸(1.0%)、雑品・サービス(0.9%)であった。インフレ率は、2022年8月に14.6%を記録して以降、低下傾向を示しており(図)、ボツワナ銀行(中央銀行)の中長期的インフレ目標の3%から6%のレンジ内に突入した。

図:インフレ率の推移

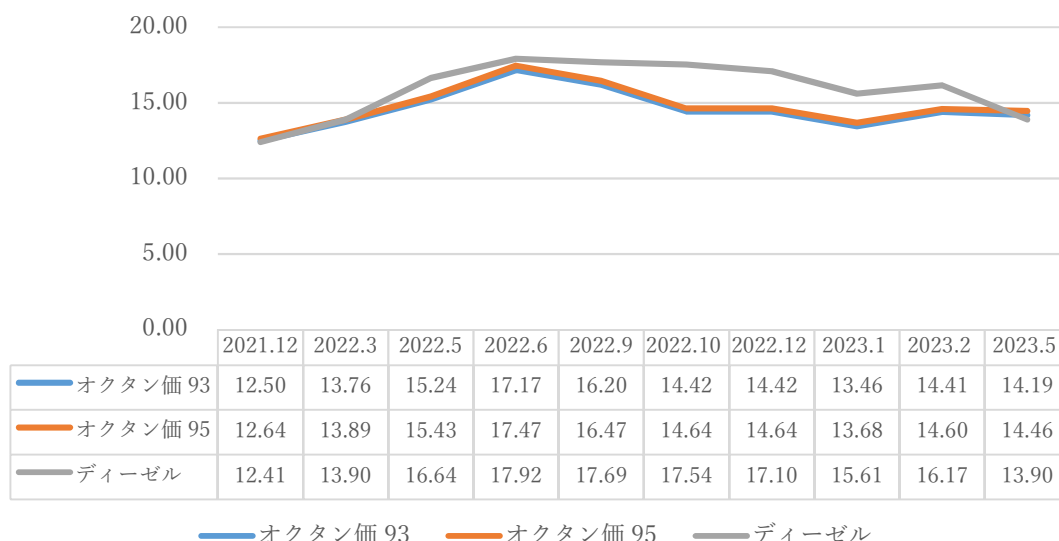


○燃料小売価格の値下げ改定

20日、ボツワナ・エネルギー規制庁は、前月の国際原油価格及び製油価格の下落を踏まえ、燃料小売価格を以下のとおり値下げ改定した。新価格は翌日から施行された。

品目	値上額 (改訂後の価格)
ガソリン (オクタン価 93)	14.19 プラ/リットル
ガソリン (オクタン価 95)	14.46 プラ/リットル
ディーゼル	13.90 プラ/リットル

図：過去の1年の燃料小売価格の推移：プラ/リットル



○ 4月国際商品貿易統計-1.4億プラの黒字-

4月のボツワナの商品輸入額は60億6,070万プラで、2023年3月の72億149万プラ(改定値)と比べ16%減少した。他方、同月の輸出総額は61億9,660万プラで、2023年3月の83億7,040万プラ(改定値)から26%増加した。この結果、同月の貿易収支は1.359億プラの黒字となった。前月比でダイヤモンドの輸出額は減少したものの、輸入上位項目である燃料及び食料品等の輸入額も減少したことから、貿易収支は前月に引き続き黒字となった。

(分野別内訳:上位5分野(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	燃料 22.5	食料品等 18.0	機械・電機 12.4	化学・ゴム製品 12.2	ダイヤモンド 12.2
輸出	ダイヤモンド 84.7	銅 5.8	機械・電機 2.7	塩・ソーダ灰 1.4	牛 0.9

(国別内訳:上位5か国(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南ア 76.8	ナミビア 4.3	中国 2.7	インド 2.4	ザンビア 2.3
輸出	UAE 27.5	インド 17.7	ベルギー 13.1	南ア 12.6	香港 8.3

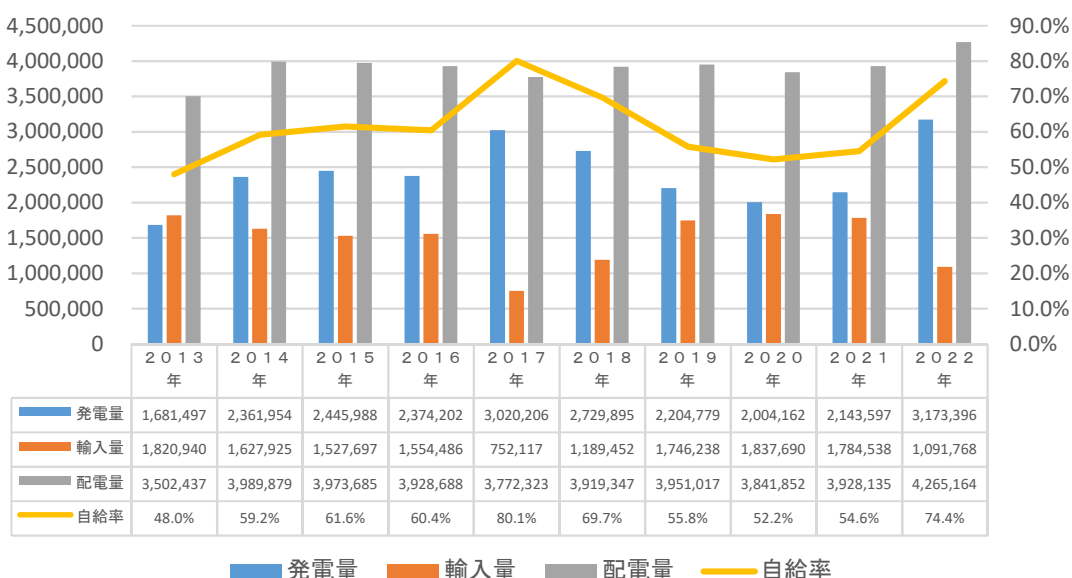
○ 2023年第1四半期GDP

2023年第1四半期の名目GDPは、668.8億プラとなり、前年同期589.054億プラから13.5%の増加となった。内訳は鉱業・採石が19.6%と最も大きく、公共・防衛15.5%、卸売・小売11.11%、建設10.6%、金融・保険・年金5.7%が続いている。また、実質GDPについては、前年同期比で5.4%の増加となった。これは主にダイヤモンド増産及びコマカウ銅山の生産安定化による鉱業・採石(同10.8%増)、発電量及び水消費の伸びによる水・電力(同19.3%)が牽引したことによる。

### ○ 2023年第1四半期電力統計

第1四半期の発電量は、前四半期(2022年第4四半期)の発電量807,943メガワットから10.2%増加の890,665メガワットとなった。これは主にモルブレA発電所の稼働状況の改善によるものである。他方、輸入量については、前四半期と比べ、0.5%減少の274,978メガワットとなった。この数年、国内の発電事情の改善に伴い輸入量は減少傾向である(図)。

図: 過去10年間の電力統計(単位:メガワット)



### ○ 2023年第1四半期鉱業統計

第1四半期の主要鉱物の生産量は、前四半期比で、ダイヤモンドは18.9%、銅(銅精鉱)の生産量は前四半期比で14.0%増となった(図)。

(注)銅・ニッケル・コバルト溶融化合物(MATT)の生産量は2017年以降、ゼロ(N/A)となっており、統計局によれば、鉱山が仮清算手続き中であることが理由であるとしている。

図: 直近の鉱物別生産量

	ダイヤモンド (千カラット)	石炭 (トン)	金 (キログラム)	銀 (キログラム)	銅 (トン)	ソーダ灰 (トン)	塩 (トン)
2023年第1四半期	6,989	644,674	70	12,582	12,440	66,702	92,107
2021年第1四半期	5,040	516,868	174	n.a.	n.a.	71,638	69,275
2021年第2四半期	5,827	485,642	186	n.a.	n.a.	57,962	101,776
2021年第3四半期	6,500	549,227	176	6,757	7,517	65,195	169,826
2021年第4四半期	5,329	469,481	113	3,626	4,225	67,043	143,751
2021年通期	22,696	2,021,218	649	n.a.	n.a.	261,838	484,628
2022年第1四半期	6,299	547,921	122	5,178	5,615	75,241	59,714
2022年第2四半期	5,576	599,474	150	7,542	8,237	61,647	54,124
2022年第3四半期	6,726	662,262	83	8,507	9,438	82,224	135,831
2022年第4四半期	5,878	651,211	71	9,947	10,911	66,103	73,634
2022年通期	24,479	2,460,868	426	31,174	34,201	285,215	323,303

【当館関連イベント】

○ 世界知的所有権機関(WIPO)ジャパン・ファンド事業「INTELLECTUAL PROPERTY WEEK」

27日～30日、ハボローネ市にて開催された世界知的所有権機関(WIPO)ジャパン・ファンド事業「INTELLECTUAL PROPERTY WEEK」に、当館村井臨時代理大使が出席した。本イベントは、日本政府(特許庁)とWIPOが、拠出金を通じ当地にて開催した知的財産セミナーであり、27日～28日は当地大学及び研究開発機関関係者向け、29～30日は中小企業関係者向けと2部建てで開催された。

(了)